

「母との近居のための改修事例」

京都支部 山田雄斗

設計依頼の経緯

施主であるNさんは学生時代まで京都に住んでおられ、現在は東京で働く50代の女性です。母親が高齢になり、一人で暮らすには少し心配も出てきたため、京都に引越すことを決断されました。発展途上国のインフラ整備のコンサルを行っている会社にお勤めで、年の半分近くは海外に出張に出られます。出張が多い仕事の性質やコロナ禍の影響から在宅で働ける環境が整っており、仕事を辞めることなく京都に引っ越すことが可能でした。

敷地と建物

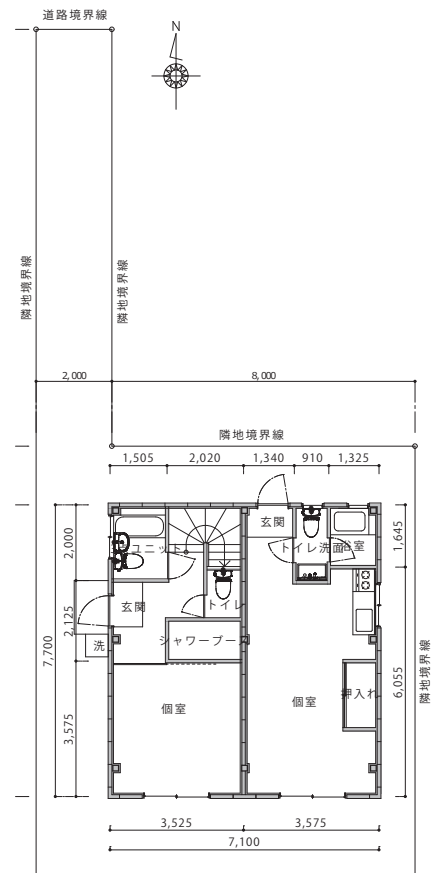
敷地は京都市左京区北白川の閑静な住宅街に位置しています。お母様が住んでおられる母屋の裏側に、以前留学生向けの学生寮として使っておられた鉄骨造2階建、延面積100㎡ほどの建物を所有されており、この建物の1階を自身の住まい、2階を賃貸用として改修する計画です。母屋と元学生寮は母屋の裏庭を介してつながっており、行き来が簡単にできるようになっています。

対面での打ち合わせが難しい

Nさんの職業上、京都に来られる時間は限られており、打ち合わせは基本的にZOOMを使って行いました。ZOOMを使った打ち合わせの場合、日本であろうが海外にしようがネット環境さえ整っていれば可能なため、今回のような特殊な条件下でも設計が進められるというのは非常に便利に感じます。ただ、基本設計の承認や実施設計段階での仕上げの決定など要所要所は、やはり直接お会いして対面で打ち合わせを行いたいので、帰国の時期に合わせたスケジュール管理が重要となりました。

普段の設計の場合、現在の住まいの現調をし、生活の在りようや物の量を把握したりするのですが、今回はNさんにタブレットで写真を取ってもらい現状を確認させていただきました。普段から写真やデータのやりとりが多いようで、写真に細かくコメントを書き込んでいただけたこともあり、現調なしでもある程度は把握ができました。

基本設計から監理に至るまで、ZOOMでの打ち合わせがほとんどで、工事が始まってからも現場にタブレットを持っていき、相談する必要がある場合は一緒に現場の映像を見ながらの打ち合わせをしていました。お互いの理解に食い違いなく進むかどうか不安でしたが直接会えない分、細かな議事録の作成や、写真や映像、参考事例のイメージなど、いつもよりも丁寧な資料作成を心がけたため、思いのほか問題もなく進めることができました。



配置図

設計プランについて

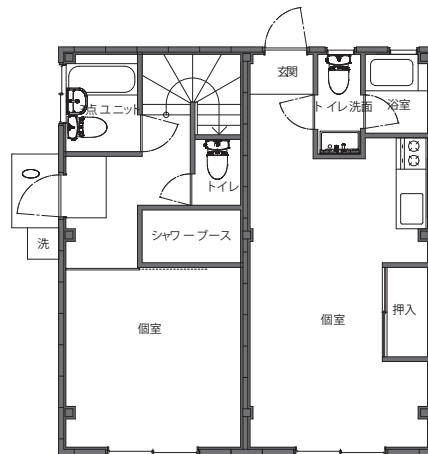
元の間取りは、1階にワンルームの独立した1部屋と英語教室を開いていた個室、2階用の水廻りがあり、2階には3つの個室とキッチンがありました。改装後は1階にNさんが住み、2階は賃貸で貸し出せば良いかなという計画です。1階については内部間仕切り壁はほとんど撤去し、間取りを大きくやりかえています。開口部や水廻りを大きく変更するとコストも上がってくるため、その辺りはあまり変更しないようにしています。2階については賃貸用ということもあり、内部間仕切り壁は可能な限りそのまま使い、床や天井も既存の上から増し貼りをし、できるだけ撤去部分を少なくしています。

1、2階とも床壁天井は断熱改修をし、使い方に合わせてカバー工法のサッシもしくは内窓を設置しています。2階は賃貸ですので割り切って仕様を下げ、費用を抑えることも考えられましたが、これまでにいろいろな賃貸に住まれてきたNさんとしては、借り手側に気持ちが入るようで、結果賃貸としては贅沢に思える仕様となりました。

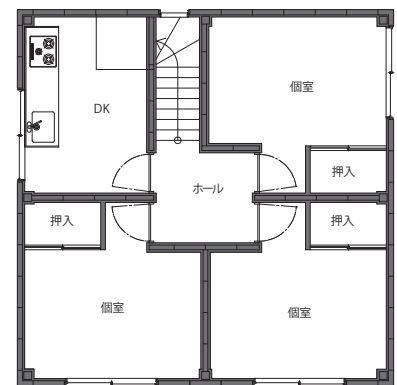
Nさんにとって思い入れのある建物でもあり、使えるものは使い続けたいとのことで、2階の個室で使われていた古いフラッシュ戸を綺麗に磨き、杉の付框で幅や高さを調整し、再利用をしています。元の扉は糊やシールの跡で汚れていて、どこまで綺麗に仕上がるか心配でしたが、出来上がってみると予想以上に綺麗に仕上がってくれました。



工事中的様子



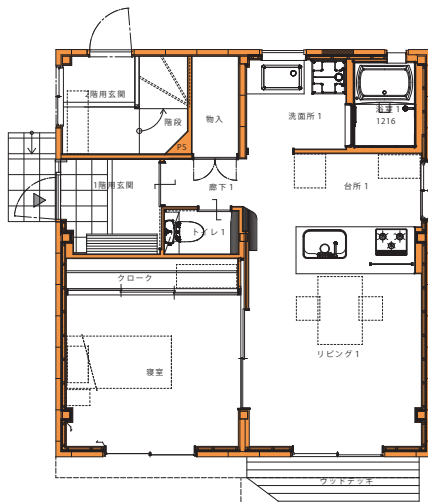
既存1階



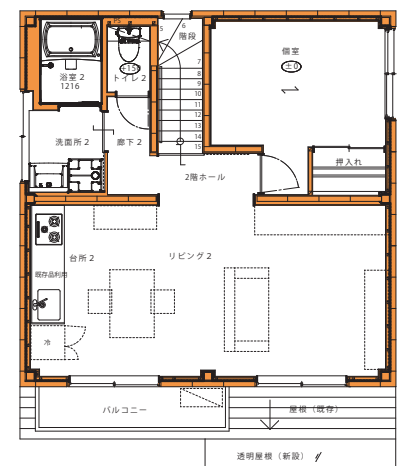
既存2階

before

after



改修後1階



改修後2階

同居ではなく近居をする意味

改装の目的の一つは向かいに住む高齢の母親の心配ではありましたが、同居をするのではなく、近居という判断に至ったのは、これまでに構築してきた自身の生活スタイルも維持しつつ、程よい距離感で母親と暮らしていきたいという思いが強くなりました。

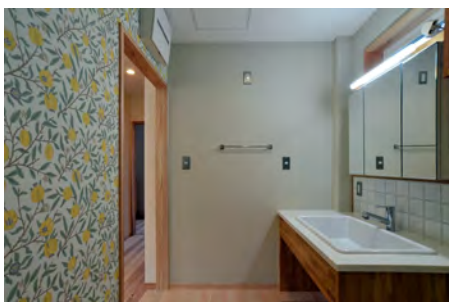
そのためあまり頻繁に庭から窓越しに訪問されても困るので、母屋との間にささやかですが木製の扉を設置しています。これ見よがしのフェンスや塀では母の機嫌を損ねてしまうかもしれないので、さりげない感じの扉をNさん自ら探されました。本来は上下逆向きの製品で、扉の高さももっと低いのですが、その辺りの微妙な塩梅はNさんの感覚に合わせています。目線は通り、鍵もついておらず、横からも通り抜けられますが、今後は少しずつ植栽や鉢植えなどで隙間を塞いでいき、程よい距離感を保つことができればと思っています。

Nさんは独身で、バリバリ仕事をこなし、京都、東京、海外を往来し、決まった職場というものがありません。スマホとPCがあれば基本的にどこでも仕事ができるそうです。今回の京都への移住に際して、東京にも拠点が良いということで安い木賃アパートを借り、同僚数名と共同で管理し、必要に応じて寝泊まりをしているそうです。自宅の改修で余った壁紙を東京に持って帰り、同僚と共にDIYを楽しんでおられます。

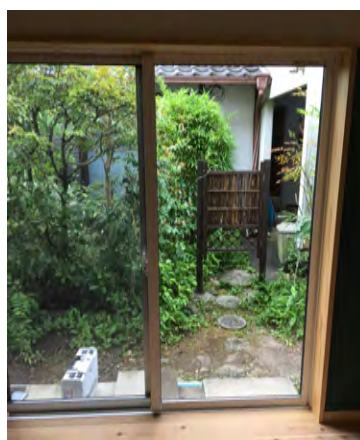
昔と比べ、生き方や仕事のあり方というのは本当に多様化していると感じます。家族の概念や働き方が変わっていく中で、打ち合わせやプレゼンの方法（例えば3Dによる立体化）、プランの中身など、これまでにはなかった要望に対しても柔軟に対応できるしなやかさと、能力が設計者には求められているように感じます。



1階リビング・ダイニング



1階洗面所



庭と母屋との間の木製扉



アプローチ廻り



2階リビング



2階水廻り



2階階段廻り